

1 マニュアルの目的と構成

- 近年、全国各地において、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、誰もが暮らしやすいまちづくり、誰もが利用しやすい建物づくりが進められています。
- 特に、建物サインについては、さまざまな建物利用者が安全に快適に建物を利用することができるように、必要な情報をわかりやすく提供する、という役割がこれまで以上に求められています。
- そこで、本マニュアルは、よりよい建物サインづくりに取り組むための手引書として作成され、以下の2点が主な内容となっています。

建物サインづくりにおける基本事項（4章）

- 建物サインづくりに取り組むにあたり、あらかじめ理解しておきたい基本事項を整理しています。

建物サインづくりチェックリスト（5章）

- 建物利用者や建物所有者、設計・施工者、管理者・運営主体等（以下、建物管理者等）が、建物サインづくりに取り組む上でのポイントを、チェックリスト形式で整理しています。状況に応じて、必要なチェックリストを活用してください。

2 マニュアルの基本的な考え方

- 今日の建物サインの現状や求められている役割から、以下の3点が建物サインづくりにおける重要な課題となっています。
- 本マニュアルは、これらの課題を踏まえて作成されました。

建物管理者等の建物サインに対する基本的理解の促進

- よりよい建物サインづくりのためには、建物サインの設置・改善や維持管理・運用を主に行う建物管理者等が、建物サインの役割を十分に理解することが重要です。

建物サインの適切な維持管理・運用の推進

- 建物サインの設置・改善に限らず、すでに設置された建物サインが十分に機能するように、適切に維持管理・運用することが重要です。

さまざまな建物利用者のニーズへの配慮

- 建物利用者によって、建物サインに求める機能はさまざまです。
- 本マニュアルは、さまざまな建物利用者の建物サインに係る多様なニーズを考慮した内容とするため、区民参加のワークショップを開催し、いただいたご意見を踏まえて作成されました。



ワークショップでは、野村歡先生（国際医療福祉大学大学院教授）にアドバイザーとしてご参加いただきました。